

第7回“共創”自治協議会サミット

◆開催日時：平成30年10月23日（火）13:30～（13:00開場）

◆開催場所：なみきスクエア（東市民センター）

なみきホール

◆主催：福岡市自治協議会等7区会長会，福岡市

第7回“共創”自治協議会サミットプログラム

(敬称略)

時間	プログラム		
13:30	開会		
13:40	自治貢献者感謝状贈呈式 地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈式		
14:20	活動事例発表		
	<table border="1"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>なみきホール (南区) よこの手カフェ 横手校区自治協議会 会長 川畑 征輝 横手校区社会福祉協議会 会長 城山 福盈 よこの手カフェ 代表 山下 美智子 (城南区) ものづくりや自然現象を五感で楽しむ 「鳥飼チルドレンズミュージアム」 鳥飼校区自治協議会 会長 一川 洋一 鳥飼校区自治協議会 青少年育成部長 吉良 佳奈 (早良区) だいこん家族のまちづくり 小田部校区自治協議会 会長 松永 マツエ 小田部校区自治協議会 事務局 田上 智美 (西区) 九大生との連携による校区づくりを目指して 西都校区自治協議会 会長 徳永 哲也 西都校区学生連絡協議会 会長 五島 雄一郎 西都校区学生連絡協議会 副会長 合田 尚人 (東区) 「千早並木広場」でにぎわいづくり ～つながるまち 広がるまち 成長するまち 千早へ～ 千早校区自治協議会 会長 村上 肇 ちはやふるかしい21 工藤 正彦 (博多区) みんなの大浜まつり～若い力の発掘～ 博多校区大浜自治協議会 会長 堀 武志 みんなの大浜まつり 実行委員会 委員長 春山 大輔 学校法人滋慶文化学園福岡 ECO 動物海洋専門学校 事務局長 宮崎 美鈴 (中央区) ペーロンポート in ふくはま 福浜校区自治協議会 副会長 村場 仁慈</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>第1・第2会議室 絆づくりへの一歩 ～未来への共生のために今出来ること～ 医療法人相生会 金隈病院 地域医療連携部 山内 良一 交通安全と地域貢献 株式会社マイマイ 教習管理部 インストラクター 柳井田 慎一 子育てサロン活動を通して 社会福祉法人 仁愛会 仁愛保育園 保育士 山口 葉月 協定書から始まる地域との連携 ビックエコー小田部店 店舗責任者 平原 悠祐 発表終了後 名刺交換&交流会</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>上記の企業等の発表は “ふくおか”地域の絆応援団 セミナー&交流会として実施します</p> </div> </td> </tr> </table>	<p>なみきホール (南区) よこの手カフェ 横手校区自治協議会 会長 川畑 征輝 横手校区社会福祉協議会 会長 城山 福盈 よこの手カフェ 代表 山下 美智子 (城南区) ものづくりや自然現象を五感で楽しむ 「鳥飼チルドレンズミュージアム」 鳥飼校区自治協議会 会長 一川 洋一 鳥飼校区自治協議会 青少年育成部長 吉良 佳奈 (早良区) だいこん家族のまちづくり 小田部校区自治協議会 会長 松永 マツエ 小田部校区自治協議会 事務局 田上 智美 (西区) 九大生との連携による校区づくりを目指して 西都校区自治協議会 会長 徳永 哲也 西都校区学生連絡協議会 会長 五島 雄一郎 西都校区学生連絡協議会 副会長 合田 尚人 (東区) 「千早並木広場」でにぎわいづくり ～つながるまち 広がるまち 成長するまち 千早へ～ 千早校区自治協議会 会長 村上 肇 ちはやふるかしい21 工藤 正彦 (博多区) みんなの大浜まつり～若い力の発掘～ 博多校区大浜自治協議会 会長 堀 武志 みんなの大浜まつり 実行委員会 委員長 春山 大輔 学校法人滋慶文化学園福岡 ECO 動物海洋専門学校 事務局長 宮崎 美鈴 (中央区) ペーロンポート in ふくはま 福浜校区自治協議会 副会長 村場 仁慈</p>	<p>第1・第2会議室 絆づくりへの一歩 ～未来への共生のために今出来ること～ 医療法人相生会 金隈病院 地域医療連携部 山内 良一 交通安全と地域貢献 株式会社マイマイ 教習管理部 インストラクター 柳井田 慎一 子育てサロン活動を通して 社会福祉法人 仁愛会 仁愛保育園 保育士 山口 葉月 協定書から始まる地域との連携 ビックエコー小田部店 店舗責任者 平原 悠祐 発表終了後 名刺交換&交流会</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>上記の企業等の発表は “ふくおか”地域の絆応援団 セミナー&交流会として実施します</p> </div>
<p>なみきホール (南区) よこの手カフェ 横手校区自治協議会 会長 川畑 征輝 横手校区社会福祉協議会 会長 城山 福盈 よこの手カフェ 代表 山下 美智子 (城南区) ものづくりや自然現象を五感で楽しむ 「鳥飼チルドレンズミュージアム」 鳥飼校区自治協議会 会長 一川 洋一 鳥飼校区自治協議会 青少年育成部長 吉良 佳奈 (早良区) だいこん家族のまちづくり 小田部校区自治協議会 会長 松永 マツエ 小田部校区自治協議会 事務局 田上 智美 (西区) 九大生との連携による校区づくりを目指して 西都校区自治協議会 会長 徳永 哲也 西都校区学生連絡協議会 会長 五島 雄一郎 西都校区学生連絡協議会 副会長 合田 尚人 (東区) 「千早並木広場」でにぎわいづくり ～つながるまち 広がるまち 成長するまち 千早へ～ 千早校区自治協議会 会長 村上 肇 ちはやふるかしい21 工藤 正彦 (博多区) みんなの大浜まつり～若い力の発掘～ 博多校区大浜自治協議会 会長 堀 武志 みんなの大浜まつり 実行委員会 委員長 春山 大輔 学校法人滋慶文化学園福岡 ECO 動物海洋専門学校 事務局長 宮崎 美鈴 (中央区) ペーロンポート in ふくはま 福浜校区自治協議会 副会長 村場 仁慈</p>	<p>第1・第2会議室 絆づくりへの一歩 ～未来への共生のために今出来ること～ 医療法人相生会 金隈病院 地域医療連携部 山内 良一 交通安全と地域貢献 株式会社マイマイ 教習管理部 インストラクター 柳井田 慎一 子育てサロン活動を通して 社会福祉法人 仁愛会 仁愛保育園 保育士 山口 葉月 協定書から始まる地域との連携 ビックエコー小田部店 店舗責任者 平原 悠祐 発表終了後 名刺交換&交流会</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>上記の企業等の発表は “ふくおか”地域の絆応援団 セミナー&交流会として実施します</p> </div>		
16:00	閉会		

福岡市自治貢献者感謝状贈呈者名簿

(敬称略 50音順)

特別感謝状

(東 区)

東区自治組織会長会
(香椎東校区自治協議会) 石川 孝治

(南 区)

南区自治組織協議会
(西高宮校区自治協議会) 内山 仁

(城南区)

城南区自治協議会連絡会議
(堤地区自治協議会) 山口 繁實

(西 区)

西区自治協議会会長会
(周船寺校区自治協議会) 大谷 善博

感謝状

(東 区)

あすねつと香陵	伊東 浩平
箱崎校区自治協議会	児嶋 邦男
八田校区まちづくり協議会	許斐 俊次郎
千早西校区自治協議会	近藤 術智
志賀島校区自治協議会	中西 敏明
香住丘校区自治協議会	中山 利明
勝馬校区自治協議会	鍋島 喜代俊
城浜校区自治協議会	平川 正之
舞松原校区自治協議会	藤本 剛
青葉校区自治連合協議会	松尾 良昭
若宮校区自治協議会	宮下 強
西戸崎校区自治協議会	安河内 千洋

(博多区)

千代校区自治協議会	安藤春雄
博多校区奈良屋自治協議会	後藤久義
東住吉校区自治協議会	高野征男
月隈校区自治協議会	武内良孝
東月隈校区自治協議会	仲野孝
席田校区自治協議会	中村信之
三筑校区自治協議会	原盛男

(中央区)

草ヶ江校区自治協議会	宮原泉
小笹校区自治協議会	渡邊鐸夫

(南区)

高木校区自治協議会	烏飼常□
長住校区自治協議会	西見方孝
東花畑校区自治協議会	古川幸男
玉川校区自治協議会	真鍋隆一

(城南区)

烏飼校区自治協議会	池田晴昭
田島校区自治協議会	日隈元克

(早良区)

有田校区自治協議会	伊藤高治
有住校区自治協議会	入江正勝
野芥校区自治協議会	行徳收司
田隈校区自治協議会	貞包俊晴
飯倉校区自治協議会	橋本幹生
田村校区自治協議会	古江健祐
飯倉中央校区自治協議会	山下昭夫

(西 区)

愛宕校區自自治協議會
今津校區自自治協議會
壺岐校區自自治協議會
能古校區自自治協議會
福重校區自自治協議會

市村昭生
大齒修司
小野真利
前田高男
本井茂夫

地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈者名簿

企業・団体名 (敬称略 50 音順)	主な活動内容
池伝株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の献血事業への協力 ・清掃活動の実施 ・町内のまつりや公民館文化祭の際に，来場者用駐車場として事業所の駐車場を貸し出し
有限会社エス・エイチ・シー	<ul style="list-style-type: none"> ・通学時の子どもの見守り活動，夜間パトロール，地域清掃活動などへの参加 ・クールシェアスポットへの登録 ・中学校職場体験学習の受け入れや幼児等との交流の実施
久保山整骨院	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「ニコニコサロン」を民生委員や社会福祉協議会等と一緒に立ち上げ，運営に参加 ・ソファの寄付や折りたたみ椅子の貸し出しや「ロコモ予防運動」等の指導
医療法人相生会 金隈病院	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に向けて健康相談や医療講演，認知症予防の寸劇を実施 ・老人会の清掃活動への参加 ・夏祭りや餅つきなどに，スタッフとして従事 ・地域住民を院内に招いて，健康フェアを開催
第一野の花学園	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り大会・文化祭及び今津ふれあい市の際に，会場設営や機材（テント・車両など）の貸与，スタッフの派遣等の協力 ・校区住民が気軽に参加できるイベントとして，野の花まつりを開催 ・校区行事の際に，送迎用のマイクロバスを提供
匠建設株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・校区夏祭りの“やぐら”の設営作業への協力 ・清掃活動と通学路でのあいさつ運動への協力 ・消防分団の分団員として，社員が入団 ・小学校へ地域サポーター員として，講師を派遣
ドラッグ新生堂 室見店	<ul style="list-style-type: none"> ・室見団地への商品配達の際，高齢者や身体の不自由な方などの安否や健康状態の確認を実施 ・小田部校区自治協議会と，大規模災害発生時の協力や，校区が主催する地域活動への参加，地域の健全かつ安全安心のまちづくりへの貢献などを盛り込んだ協定書を締結

企業・団体名 (敬称略 50 音順)	主な活動内容
日本自動車連盟 福岡支部	<ul style="list-style-type: none"> ・室見小学校での「自転車マナーアップ教室」の際の助言・指導や事故での衝撃を体験できる機械の貸し出し ・災害発生時の臨時避難場所として、近隣住民の安全確保についての協定書を締結
医療法人原三信病院 香椎原病院	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業や地域の研修バスハイク，ふれあいサロン，防災訓練，校区各種団体が行う健康講座等への健康運動指導士や看護師の派遣
社会医療法人 原土井病院	<ul style="list-style-type: none"> ・校区のサマーキャンプ，防災訓練，体育祭，灯りまつり等へ救護班として病院職員を派遣 ・ふれあい文化祭への作品展示協力や体育祭への参加 ・ねんりんクラブ，社会福祉協議会，中学校等の講演会へ講師を派遣
福岡シティ物流株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の夏祭りの舞台用に，大型車両を貸し出し，事前準備から撤収作業へ協力 ・町内の老人会，敬老会の事業や地域のバス研修などにバス・運転手を手配
福岡淡水株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の夏祭りの際，テント等搬入のためのトラックの貸し出し及び昼食用のうなぎの蒲焼を安価で提供 ・校区の体育祭での景品運搬用のワゴン車の貸し出し ・敬老会の際，各町内にうなぎの蒲焼を提供
医療法人 松崎クリニック	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の 75 歳以上の高齢者食事会に，スタッフの派遣や飲み物等を提供 ・公民館での講演会に医師等を派遣
姪浜西南大学まち (西南学院大学教育インキュベ ートプログラム)	<ul style="list-style-type: none"> ・姪浜校区「探題神社まつり」の企画・運営への参加 ・西新校区自治協議会主催の校区パトロール・防災訓練・餅つき等への参加
医療法人優なぎ会 雁の巣病院	<ul style="list-style-type: none"> ・雁の巣自治会敬老祝賀会の会場として，研修室を提供 ・奈多松原の植林・下草刈りやラブアース・クリーンアップへの参加 ・夏祭りの際にテント・椅子・机・提灯等を貸し出し，職員が「よさこいソーラン節」の踊りを披露

活動事例発表

よこの手カフェ

南区 横手校区自治協議会 会長 川畑 征輝
横手校区社会福祉協議会 会長 城山 福盈
よこの手カフェ 代表 山下 美智子

校区の特徴

- ・平成7年度に日佐・高木校区から分割編成された南区で最も新しい校区である。
- ・南区の南東部に位置し、西側は那珂川、南側は春日市と隣接している。
- ・南北に九州新幹線が縦断し、南側を福岡外環状道路、中央は県道長浜太宰府線『横手中央通り』をバス路線が走り、西鉄電車の大橋駅、井尻駅にも近い。
- ・高齢化率は南区平均より低いが、年々高くなってきている。

【校区の現況】（平成30年6月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
8,260人	4,160世帯	2.0人	1,531人（18.5%）

活動について

1. 概要

- ・どなたでも気軽に立ち寄っておしゃべりや交流が出来るまちかど支え合いカフェ。
- ・『居場所』『たまり場』となり、閉じこもり防止となり、友達作りができる。
- ・気軽に専門の方に相談できる”よろず相談所”を設けている。

2. きっかけ

- ・住民の高齢化が進むなか、家族介護の方達の悩みを聞くことが増えてきた。
- ・家族介護者のストレス緩和や、高齢者を含めた認知症の方達への関心と理解を深め、支え合える知恵と協力を得るために介護劇と座談会を開催（平成27年3月）。
- ・たくさんの校区住民の要望により”よこの手カフェ”につながった。

3. 経緯

- ・『介護劇』『座談会』でのアンケートの結果を大きく3点に集約。
 - ①認知症高齢者、その家族、地域住民が交流できる場所作り
→”よこの手カフェ”
 - ②認知症など福祉に関する研修会
→年2回認知症勉強会、横手中学校1年認知症サポーター養成講座
 - ③介護をしている人同士で定期的集り情報交換、悩みを話せる機会作り
→家族介護のつどい”よってこ会”年2回開催

- ・つなぐ応援隊発足

高齢者が、行方不明になった時に支援をしていただける校区内の介護・医療機関（14 事業所）ネットワーク。

4. 成果

- ・地域つながりの場となっており、校区住民もだが施設利用者など、いろいろな方と交流ができる。
- ・月ごとの誕生日祝いや特技発表の場など、自分の事を、お話しいただける場を設けており、毎月楽しみにされている方が多い。
- ・地域で何か関わる事があればと考えていたが、関わる方法が分からなかった方が、この取り組みが入口となり協力いただけるようになった。

5. 苦勞した点

- ・4年目となるが、いまだ知らない方もいらっしゃること。
- ・新しい参加者を取り入れたいが、増えると場所が手狭になること。
- ・横手公民館が遠いと参加できない方もいらっしゃること。

6. 工夫した点

- ・フリーカフェとなっているが、15分程度の発表の場があること。
(趣味や特技披露, プチ講座, ゲーム, 暮らしの情報等)
- ・よろず相談所を設け、介護の事など気楽に相談できるようにしていること。
- ・ハンド&ネイルや授産施設販売会のお楽しみがあること。(日・祝日除く)
- ・健康の為にも自分の事は自分で!セルフサービスとなっていること。

7. 今後の目標・課題

- ・幅広い年代の参加(乳幼児子育て中の閉じこもり防止など)。
- ・随時細かい課題点がでるが、同じ方向性をもった仲間(ボランティアメンバー)で話し合い、納得するまでやってみて解決すること。
- ・無理をせず、楽しみながら継続していくことが一番大切な事だと思う。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・住み慣れた校区で明るく心豊かに生涯過ごしてほしい。そのためには地域課題に校区をあげて取り組む大切さを痛感している。
- ・これからも横手に住んで良かったと思ってもらえる校区づくりに努めていく。

よこの手カフェの様子



ものづくりや自然現象を五感で楽しむ 「鳥飼チルドレンズミュージアム」

城南区 鳥飼校区自治協議会 会長 一川 洋一
鳥飼校区自治協議会 青少年育成部長 吉良 佳奈

校区の特徴

- ・東と北に樋井川，西に七隈川，南に旧筑肥線が通っていた城南区役所南側の道路に囲まれた周囲約3kmの地域である。
- ・樋井川沿いの遊歩道「ハミングロード」の花壇は，地域住民によって植えられる季節の花が咲き誇り，散歩する人々の目を楽しませている。
- ・近年では，中高層集合住宅の立地が進み，人口，世帯数ともに増加している。比較的若い世代の転入者が多いため，高齢化率は区内で最も低くなっている。

【校区の現況】（平成30年6月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
10,639人	4,963世帯	2.2人	1,895人（17.8%）

活動について

1. 概要

- ・「鳥飼チルドレンズミュージアム」は，子どもの健全育成に関する事業の1つとして，鳥飼校区青少年育成部や鳥飼公民館が中心となって企画し，年に1度，鳥飼小学校の体育館で，主に小学生を対象として日常生活では経験することが少ない科学実験やものづくり等を体験できる様々なコーナーを設け，遊び場・学び場を提供している。
- ・西新チルドレンズミュージアム実行委員会や小学校教諭の理科サークル「はこべの会」，福岡大学の「はかたわん海援隊」など多様な主体がボランティアとして参加している。

2. きっかけ

- ・西新チルドレンズミュージアム実行委員会から，鳥飼チルドレンズミュージアムの開催について提案を受けたことがきっかけであり，校区の外に行かなければ経験できないことを校区の中で経験でき，また，親が安心して送り出せる遊び場を作ることを目標に取り組みを始める。

3. 経緯

- ・平成20年に西新チルドレンズミュージアム実行委員会の提案を受け，同実行委員会のサポートのもと，第1回を開催した。
- ・平成21年に西新チルドレンズミュージアム実行委員会から，地域が段階的に企画・運営を担うよう提案を受け，同年以降，協力者の募集を含む企画から運営まで，青少年育成部が主体的に担うこととした。体験できる内容の入れ替えや事業実施者としての安全対策，長時間楽しめるよう食事の提供など，改善を積み重ね，そうした経緯や趣旨，経験を，事業実施を担った青少年育成部の先輩方や公民館職員が次の担い手に引き継ぎながら，現在に至る。

4. 成果

- ・多くの人々の努力により、一過性のイベントではなく、地域住民が企画・運営し、多様な主体が協力して開催する特色ある事業となっている。
- ・多数の子どもたちが五感を通したものづくりの楽しさや科学や自然現象の不思議さを体験、発見することができている。
- ・29年度は小学校からの案内なしで、1,000人近くの子どもたちが集まるなど、地域に密着した事業になっている。
- ・親が安心して一日中遊びに行かせられる場を提供することで、親の育児負担を軽減できている。

5. 苦勞した点

- ・地域が主体的に企画・運営を担い始めた当初、活動の実績が少なく、十分な資料がない状況で、様々な団体の協力を得られるように、事業の趣旨を説明し、理解してもらうことが難しかった。青少年育成部のみで様々な団体へ説明に行っても、話すら聞いて貰えないことがあった。
- ・青少年育成部の役員等が1年で交代する中で、この事業の経緯や趣旨、経験を伝え、具体的な企画・運営のノウハウを引き継ぎ、毎年開催すること自体が厳しかった。

6. 工夫した点

- ・多くの団体に当事業の趣旨を説明したことで、様々な団体の協力を得られるようにしている。
- ・安全面の配慮や事故発生時の連絡体制の構築などのリスクマネジメントを徹底している。
- ・公民館職員と積極的に協力を求め、連携して事業に取り組んでいる。

7. 今後の目標・課題

【目標】

- ・10周年記念の新企画として、小中学生が1つのブースの企画・運営に取り組むピアサポーター制度に取り組んでいる。この取り組みを継続することで、当事業に参加して体験するだけでなく、自ら学び、同級生に伝えるという、経験を得ること。
- ・当事業の教訓や趣向を次の担い手に伝え続けることで、今後も改善しながら、校区の子どもたちに科学実験やものづくり体験を通した遊び場・学び場を提供し続けること。

【課題】

- ・幼児を対象としたブースの充実。
- ・引き継ぎ書の充実。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・10年の節目を迎えることができた理由には、校区の活動者が変わる中でも、当事業の趣旨を引き継ぎできていることや、たくさんの協力を得て実施できているという意識を共有し、感謝の気持ちを持って活動できていることなどが挙げられる。

全体の様子



水リンピック



超低温の世界



樋井川ミニ水族館



ブーメランを作ろう



ふえを作ろう



だいこん家族のまちづくり

早良区 小田部校区自治協議会 会長 松永 マツエ
小田部校区自治協議会 事務局 田上 智美

校区の特徴

- ・校区の西側に室見川の河畔公園が広がる閑静な住宅地で、地下鉄の駅から比較的近く、都心方面への路線バスの便もよい。交通便利性と生活環境の良さから、子育て世代に人気が高い校区である。
- ・近年、分譲や賃貸マンションが多く建てられ、通勤族も多く居住している。
- ・年齢区別の人口では、40歳代とその子どもの世代の割合が高く、働き盛りの両親とその子どもで構成されている世帯が多い。

【校区の現況】（平成30年6月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
9,569人	3,695世帯	2.6人	1,969人（20.6%）

活動について

1. 概要

- ・地域住民が自主的に取り組む次世代型地域コミュニティの仕組みづくりを行っている。
- ・従来から実施している夏まつりや運動会等に加え、さまざまな世代や立場の地域住民を対象にしたイベントと団体主催行事を同じ日に開催する「こたべスマイルデー」（年5回開催）や地域の企業、高齢者福祉施設、歯科医等と連携して、介護講座や健康体操、歯科検診などを行う「こたべ福祉まつり」などを開催している。

2. きっかけ

- ・地域活動の中心として活動してきたメンバーの高齢化が進むとともに、若い世代の新しい住民の主体的な参加が減っているように感じ始めた。
- ・このため、地域住民が、自分たちの住む地域に愛着や誇りを持てるよう地域の歴史的な資産である“小田部大根”をシンボルにして、高齢者や子育て支援、安全安心のまちづくりなどの取り組みを進めていくこととした。

3. 経緯

- ・もっと多くの地域住民に、まちづくり活動へ参加してもらおうと、平成28年11月に、新企画「サンデーカフェ」を始めた。
- ・その後、平成29年7月に、「サンデーカフェ」と同日に開催するイベントの総称を「こたべスマイルデー」とした。
- ・平成30年3月に、第1回「こたべ福祉まつり」を開催した。

4. 成果

- ・「こたべスマイルデー」には、子どもから高齢者まで、幅広い世代から多数の参加があり、世代間の交流と諸団体間の相互理解を図ることができた。
- ・「こたべ福祉まつり」では、自治協議会と市がパートナーとなり、企業、高齢者福祉施設、医療機関等の様々な主体を巻き込んで、共創の取組みを進めることができた。

5. 苦労した点

- ・これまでの地域活動の多くは、マニュアル化されておらず、メンバーの経験と感覚で物事を進めている例が多かったため、若い世代の住民に理解してもらえないことが多くあった。
- ・メンバーの意識を変えることを徹底し、根気よく続け、それを発信していかないと、若い世代の住民の理解は得られないことを痛感した。

6. 工夫した点

- ・自治協議会の活動が誰からも見えるよう、自治協だよりやホームページでこまめに情報発信をすることとした。
- ・早めに事業計画を立てることと、みんなで話し合う雰囲気を整え、その上で、より多くの住民が集える新たな場づくりを行った。

7. 今後の目標・課題

- ・校区活動の主要メンバーの高齢化が進む一方で、15人の町内会長の内、40歳代が3人と、若い人材も徐々に育ってきており、今後も若い世代のリーダーを育成して、校区の活動をさらに活性化していく必要がある。
- ・校区の取組みを進めることで、事務局の負担が大きくなるような仕組みづくりをしなくてはならない。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・大根、カボチャ、米などを育ててきた豊かな地で、小田部のまちの住民が一つの家族のように“子どもから高齢者まで、それぞれの暮らしを尊重し、助け合い支え合う家庭づくり”を進めていく。



こたべスマイルデー



こたべ福祉まつり



小田部きれい華隊



夏まつり



新春フェスタ



九大生との連携による校区づくりを目指して

西区 西都校区自治協議会 会長 徳永 哲也
西都校区学生連絡協議会 会長 五島 雄一郎
西都校区学生連絡協議会 副会長 合田 尚人

校区の特徴

- ・西都校区は、福岡市が市西部地域の新たな拠点として、また九州大学伊都キャンパスの玄関口として平成9年に着手した伊都土地区画整理事業の完了によって誕生したといえる福岡市で最も新しい校区である。
- ・平成17年9月のJR九大学研都市駅開業、翌18年4月の大型商業施設オープン、22年7月の西部地域交流センター（さいとびあ）の開館など利便性の良さから若い子育て世代を中心に多くの家族連れが移り住み、人口は昨年6月、1万人を超えた。
- ・九州大学の伊都キャンパス統合移転は本年9月末で終了し、同大学の学生や教職員の数は約1万9千人といわれる。これらの学生の多くが校区内のワンルームマンションに居住している。

【校区の現況】（平成30年6月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
10,122人	4,376世帯	2.3人	1,048人（10.4%）

活動について

1. 概要

- ・西都校区がある地域は、明治22年4月に施行された町村制により発足した糸島郡周船寺村に属していた。周船寺村は昭和36年4月に福岡市に編入合併し、以後、周船寺校区として発展してきたが、伊都土地区画整理事業によって、校区内の徳永・女原の2町内が分区し、平成25年10月に実施された町界町名整理によって周船寺校区から隣接の玄洋校区に移行していた西都町内とともに平成29年4月の西都小学校開校と同時に発足した。
- ・校区内約1万人の住民の8割強が、ここ10年以内に県内外から移住してきた人たちなので、校区スローガンを「みんなで創ろう西都の絆」とし、新旧住民の融和を図っている。

2. きっかけ

- ・前記3町内では平成27年4月、新校区自治協議会設立準備委員会を立ち上げた。延べ30数回にわたる会合の中で、校区内に多く居住している九大生を対象とした「地域と学生」を結ぶコネクター組織として発足した「西都校区学生連絡協議会」を自治協議会の関連団体と認め、その活動経費を自治協議会が助成することになった。

3. 経緯

- ・校区学生連絡協議会は、随時、自治協議会定例会に出席し、活動計画について報告するとともに会の規約作成にあたっては自治協議会との協議を経て、平成29年7月、設立総会を開催し、会の愛称を「Re×saito リサイト」とすることを決めて正式に発足した。

4. 成果

- ・校区学生連絡協議会は、自治協議会からの助成金をもとに西都公民館の子ども育成事業「ジャンプ広場」運営や西都小学校の放課後学習支援、毎年、開催される「いとにぎわい祭り」や地域のもちつき行事に参加するなど、地域への知名度周知に努めている。

5. 苦労した点

- ・市教委の区画整理地内への小学校開校時期の決定が遅れたことから、小学生の本来の通学先である周船寺小学校から通学距離が短い隣接校区の玄洋小学校への通学区域変更を求める校区またぎの要望が認められ、平成 23 年度から実施されたこと。
- ・新設小学校の平成 29 年度開校が内定し、新校区自治協議会の同時発足が予想されていたにもかかわらず、平成 25 年 10 月末に区画整理地内で町界町名整理が実施され、周船寺校区から西都 1・2 丁目の区域を玄洋校区に移行したことにより、周船寺校区内の 2 町と玄洋校区の西都地域による新校区自治協議会設立にあたり支障を来した。

6. 工夫した点

- ・西都校区発足前から周船寺・玄洋両小学校に通学し、小学校開校により西都小学校に通学する児童たちのために両校の P T A が中心となり、児童たちの交流会を開催した。
- ・平日の自治協議会活動への学生参加はあまり期待できないので、福岡マラソン応援のアイデア募集や「校区スポーツフェスタ」、「灯明まつり」など日祝日に開催する行事への学生たちが参加できるような企画を考えている。

7. 今後の目標・課題

- ・校区内居住の子育て世代で、今後の西都校区を担う人たち、なかでも小学校 P T A 有志と自治協議会役員との意見交換会の定期的開催。
- ・九大の伊都キャンパス完全移転に伴い、校区内に居住する学生との関係強化とこれらの九大生が卒業後、西都校区に住んでよかったと思えるような思い出づくりの提供。
- ・平成 29 年 4 月に開校した西都小学校は、児童数の急増で教室不足になり、小学校の分割と新設小学校の建設用地決定、さらに開校後の通学区域変更が課題となる。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・西都校区は、平成 29 年 4 月、小学校開校、公民館開館、自治協議会発足という福岡市では初めての 3 点セットで同時に誕生した校区である。
- ・特に公民館は小学校開校 3 年後しか設置を認めないという決まりを住民の熱意で開館にこぎつけたこと。
- ・住民の約 8 割強が県内外からの移住者であり、新旧住民混在の中で自治協議会立ち上げがスムーズに進んだのは、周船寺校区で活動していた人材が校区内に居住しており、初代役員に就任していただいたこと。



校区発足前の「まちづくり勉強会」



西都校区発足記念式



九州学研都市駅周辺の清掃活動



校区内ボランティアによる河川清掃



宮崎安貞翁顕彰祭



校区発足後初の福岡マラソン応援



校区学生連絡協議会の定例会



公民館主催の「ジャンプ広場」

「千早並木広場」でにぎわいづくり ～つながるまち 広がるまち 成長するまち 千早へ～

東区 千早校区自治協議会 会長 村上 肇
ちはやふるかしい 21 工藤 正彦

校区の特徴

- ・国道 3 号の両側にまたがる校区であり、東端には連続立体交差事業により高架化された J R 鹿児島本線、西鉄貝塚線が走り、校区内には平成 15 年に開業した J R 千早駅、西鉄千早駅が位置しており、鉄道の利便性が高い。
- ・土地区画整理事業により急速に開発が進み、高層マンションが次々と建設され、校区内の人口は 10 年余で 2 倍に増加、ファミリー世帯層の転入が多く、14 歳以下の人口の割合が約 2 割と東区の中では比較的に高い。
- ・平成 28 年 6 月、千早駅前に「なみきスクエア」（東市民センター、東図書館、千早音楽・演劇練習場、千早証明サービスコーナーを合わせた複合施設）が開館、市東部副都心である千早・香椎周辺地区の核施設となっている。

【校区の現況】（平成 30 年 6 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
11,652 人	5,177 世帯	2.3 人	1,562 人（13.4%）

活動について

1. 概要

- ・校区の中心に位置する千早駅と、なみきスクエアに隣接する「千早並木広場」を新旧住民の交流の場として活用（「青空市」、花壇づくり）し、地域の賑わいづくりと地域コミュニティづくりに向け取り組んでいる。

2. きっかけ

- ・土地区画整理事業により急速に開発が進んだ校区であるため、新旧住民が交流できるイベントを実施することにより、将来の地域振興と住民のコミュニティ活動への参加を促進させることを主眼に、平成 22 年度から「ちはやふるかしい 21」（香椎・千早のまちを元気にする活動団体）と連携し、千早駅前の「千早並木広場」で「青空市」を開催することとなった。

3. 経緯

- ・開催当初は、市（住宅都市局）の後援を受け、「ちはやふるかしい 21」が中心となり、数次にわたるイベントを実施後、「青空市」（年 1 回）として定着させてきた。
- ・自治協議会設立（平成 27 年度）にあわせ、自治協議会に「千早並木広場活用協議会」を設け、各種団体との連携を図りながら活動を行っている。
- ・現在の活動内容は、「ちはやふるかしい 21」と連携し開催する「青空市」（年 4 回）と、校区住民の協力を得ながら、平成 27 年度から実施している花壇づくり（通年）が主なものである。

4. 成果

- ・「青空市」については、年を経るごとにいろいろな人が関わるようになり、また、花壇づくりを通して、校区住民同士の結びつきも、徐々にではあるが強まりつつある。
- ・4年前からは、留学生を交えた活動の輪（海外の文化紹介）を広げてきた。
- ・なみきスクエアの開館を機に、平成 29 年度から実施されている「なみき芸術文化祭」では、「青空市」との相乗効果が現れ、来館者の集客増も図られている。

5. 苦勞した点

- ・現在、年4回のイベントとしての「青空市」を開き、それに向けた準備と取り組み、また、留学生を交えた活動の輪（海外の文化紹介）を広げてきたが、事業を継続するには、それを支える人材の確保が何よりも大切であると感じる。

6. 工夫した点

- ・当初、「千早並木広場」の活用に際しては、「青空市」などイベントに特化した取り組みを行ってきたが、平成 27 年度から、地域住民同士のつながりを広げ訪れた人にも楽しんでもらうため、校区住民で季節の花を植えるなどの花壇づくり（通年）を実施することとした。

7. 今後の目標・課題

- ・地域住民同士のつながりをさらに広げ、校区住民のコミュニティ活動への参加を促進させるため、花壇づくり活動で新たな参加者が増えるよう取り組みたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・千早校区はマンションの急増により人口が倍増。新旧住民の交流を図るきっかけづくりとしてこの取り組みを始めた。地域に愛着をもち将来の担い手となる人材を掘り起こすため、今後も、さまざまな人を巻き込みながら継続していきたい。

“なみき芸術文化祭”とのコラボ



“グローバルフェスティバル”



千早“子どもみこし”



“青空市”の風景



“民族料理”コーナー



“花壇”の植え替え作業



みんなの大浜まつり～若い力の発掘～

博多区 博多校区大浜自治協議会 会長 堀 武志
みんなの大浜まつり実行委員会 委員長 春山 大輔
学校法人 滋慶文化学園
福岡 ECO 動物海洋専門学校 事務局長 宮崎 美鈴

校区の特徴

- ・大浜地区は、博多小学校統合前の旧大浜小学校校区である。
- ・北側は、博多港国際ターミナルやマリンメッセ福岡のある海の玄関口・中央ふ頭で、近隣には福岡国際会議場などもある。東側は御笠川、南側は明治通り、西側は大博通りで区画されている。
- ・「大浜流灌頂（260年以上続く歴史ある夏祭り）」など、博多の伝統文化が息づく下町の風情が残る土地柄である一方、マンションも建ち並んでいる。また、市立特別支援学校博多高等学園や多くの専門学校があり、約4千人の学生が通う学園のまちでもある。

【校区の現況】（平成30年6月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
5,262人	3,801世帯	1.4人	653人（12.4%）

活動について

1. 概要

- ・大浜に暮らす若手（30～40代）が中心となり、子どもから高齢者まで、みんなが楽しめるお祭りを企画・運営。
- ・大浜公民館に隣接するおおはま公園「はまかぜ広場」を会場に、ステージでのイベントや飲食物のバザー、同地区の専門学校の協力によるミニ動物園などを実施している。
- ・名称は「みんなの大浜まつり」であり、平成29年度のサブタイトルは「ふれあいうたひろ場」とした。

2. きっかけ

- ・地域に興味を持つ若手人材の発掘とその育成のため。
- ・同地域に8校点在する専門学校および博多高等学園との連携を図りたいと考えた。
- ・以前から上記2点の思いを抱いていた、自治協議会の思いと、福岡市がふくおか共創プロジェクトをスタートさせたタイミングが一致したため。

3. 経緯

- ・当委員会は、このお祭りのために、新たに結成された。
- ・初年度は、企画から準備まで非常に短期間（実質3ヶ月程度）であったが、若手世代が中心となり、企画案から実施準備・運営。また、各学校との打ち合わせなども、できる限りこまめに行った。
- ・祭り当日は、地域住民やグループなどの多大な協力もあり、会場設営や片付けなどもスムーズに進行できた。

4. 成果

- ・11～14時に実施した祭りには、約500名の来場があった。
- ・実感として、子ども達から高齢者まで、幅広い世代の来場があったことを感じており、来場者の感想も、「楽しかったっよ!」「また来年楽しみにしているよ!」といった声を多数いただいた。
- ・短い準備期間だったにも関わらず、4つの専門学校とコラボレーションをすることが出来た。同じひとつの目的に向かってイベントを進めたことで、学校との関係性を築く良いきっかけとなった。

5. 苦労した点

- ・すべてが初めてのことであったうえ、準備期間が短いこともあり、バタバタすることが多かった。
- ・実行委員会のメンバーだけでなく、多数の方々に関わっていただいたが、役割分担の仕方などについて悩む箇所も多く、実行委員会の中でも、特定のメンバーの負担が大きくなってしまった。
- ・今年度は、班分けを行ったり、実行委員会の会議に学校からも参加してもらうなど、少しずつ体制の改善を図っている。

6. 工夫した点

- ・出店などが並ぶだけのお祭りではなく、地域住民が主役になるシーンを用意したこと。
- ・サブタイトルの「ふれあいうたひろ場」にある通り、ステージでは、地域住民による「うた（カラオケ）」を披露していただいた。出場者は、各町内から1名ずつの募集とし、バランスよく集めたことで、応援に来る来場者の幅広さも広がったと考えている。
- ・飲食店バザーについては、地域の飲食店にご協力いただいたことで、質の高い内容を提供できた。
- ・参加いただいた専門学校には、マンパワーとしてのボランティアだけではなく、それぞれの専門性を活かした内容で関わっていただいた。それにより地域住民も、日頃学生の皆さんが学んでいる内容を知るきっかけにもなった。

7. 今後の目標・課題

- ・今、大浜で育っている子ども達が、この地に思い入れを持ってくれるようなお祭りにしていくこと。
- ・このお祭りをきっかけとして、地域自治や行事などの関わってくれる人材を増やしていくこと。
- ・最終的には、大浜地区の住民と、この地に通う学生みんなが、毎年楽しみにしてくれて、みんなで創り上げていくようなお祭りにしていきたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・不十分だった点は、探せばたくさんあると思うが、何事もやってみないことには、前に進まない。
- ・まずは、一度目をなんとか開催できたことで、たくさんの方々からも期待をいただける結果となったり、実際にいろいろな方々とのつながりも出来た。
- ・不安はつきないが、まずは、やってみたことに大きな価値があったと感じている。

オープニングイベント



カラオケ大会



カフェ



ハンドマッサージ



ふれあい動物ミニ広場



飲食ブース



ペーロンボート in ふくはま

中央区 福浜校区自治協議会 副会長 村場 仁慈

校区の特徴

- ・福浜校区は、東は西公園、北は博多湾に面し、博多湾を埋め立ててできた校区で、海から潮風が香り、川向かいにはヤフードームをのぞみ、市内都心部からの交通の便も良い地域である。
- ・公社、公団、市営住宅などの高層住宅が立ち並ぶ住宅地で比較的狭い地域に、高校を除く、小学校、中学校、短期大学があり、学園都市としての一面もある。
- ・玉せせりなどをする伝統の祭り「十日恵比須祭り」が続けられているとともに、福浜の海岸で新春の「どんど焼き」や、「ペーロンボート in ふくはま」も開催している。

【校区の現況】（平成 30 年 6 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たりの人員	65 歳以上人口（割合）
4,936 人	2,720 世帯	1.8 人	2,153 人（43.6%）

活動について

1. 概要

- ・毎年 8 月に福浜の海岸を会場として、1 チーム 10 人のチーム対抗戦による「ペーロンボート in ふくはま」を開催している。

2. きっかけ

- ・福浜校区は、海に面しており、さらに砂浜がある海岸も有していることから、海を活用した青少年育成事業が何かできないだろうかと考え、集団で競うペーロン競技を実施しようと計画した。

3. 経緯

- ・福浜校区が平成 4 年に地元の漁師の方から、小さな漁船 2 隻を借りて最初の大会を開催した。
- ・その後青少年健全育成連合会が結成され、自治協議会を中心に実行委員会形式で毎年大会を開催、当初地元漁師から漁船を借りていたが、その後ライオンズクラブから小型の船 2 艘の提供を受けることとなり、今年の大大会は小学生の部 2 チーム、中学生の部 8 チーム、一般の部には、他校区からの参加を含み 13 チームが参加するまでの規模となった。

4. 成果

- ・競技を通じ、参加者相互の連携が良くなり、町内の人間関係や絆が参加回数をこなすごとに強くなってきている。また、小中学生も競技を通じて、チームワークの大切さや校区住民としての愛着や自覚も芽生えてきている。

5. 苦労した点

- ・ 福浜校区の住民の高齢化率が 40%を超え、運営スタッフや参加チームの確保に年々苦労している。

6. 工夫した点

- ・ 運営に際しては設営などで当仁中学の生徒の協力をあおいでおり、また参加者も近年校区内の住民だけではなく、他の校区からの挑戦者も受けるようにして、参加者の交流が広がるように工夫している。

7. 今後の目標・課題

- ・ 海に面した地理的利点を大いに活用して、校区の住民の絆を強くするため、ペーロン競技やどんど焼きだけではなく、様々なイベントを福浜の海岸で開催できるように努力していきたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・ 各校区には様々な地理的、歴史的利点があると思われるので、そのような校区の財産を大いに活用して校区を盛り上げていけば、福岡市の各校区が特色ある地域活動が広がっていくと思う。

開会式の様子



競技の様子



